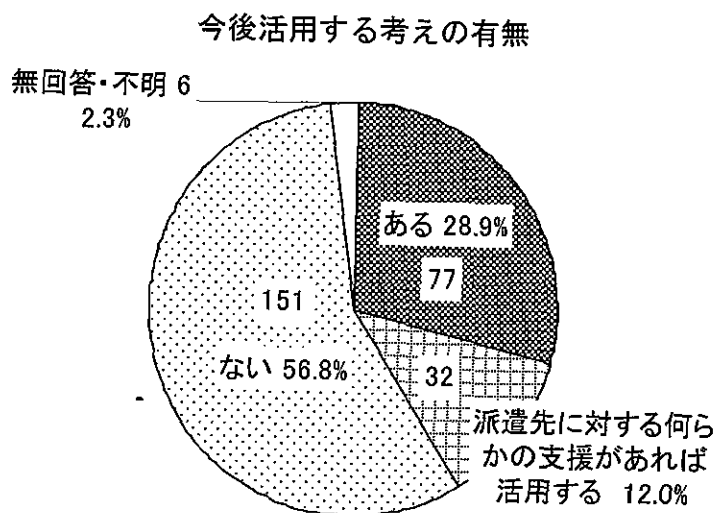
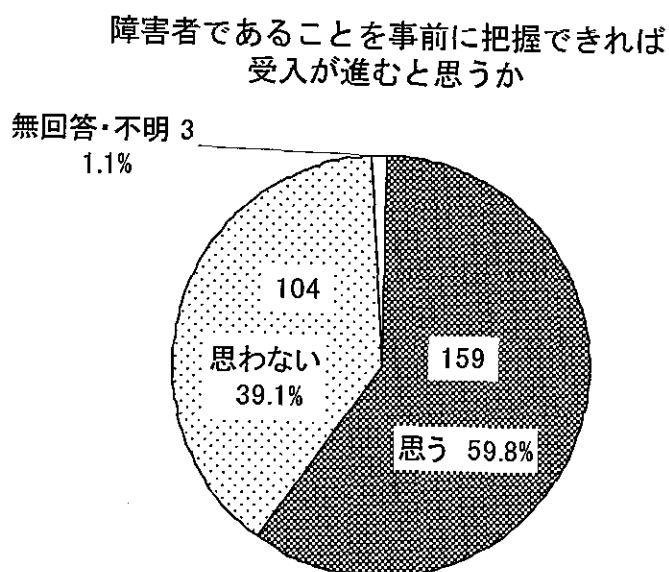


(4) 今後の障害者である派遣労働者の受入について

今後障害者である派遣労働者を受け入れて活用する考えがあると回答した事業主は28.9% (77) であった。



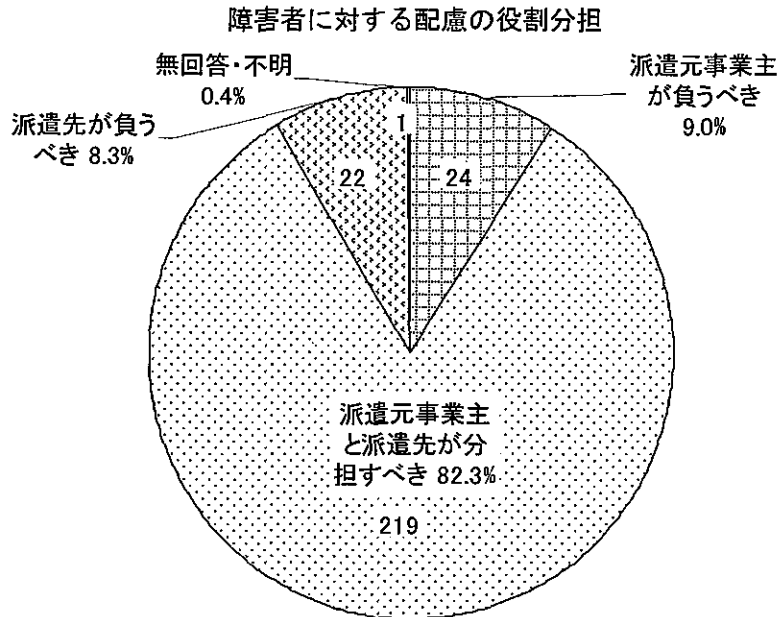
また、事前に派遣労働者が障害者であることを把握できるような仕組みについては、59.8% (159) の事業主がそういった仕組みがあれば、受入が進むと思うと回答した。



3 障害者である派遣労働者への配慮等

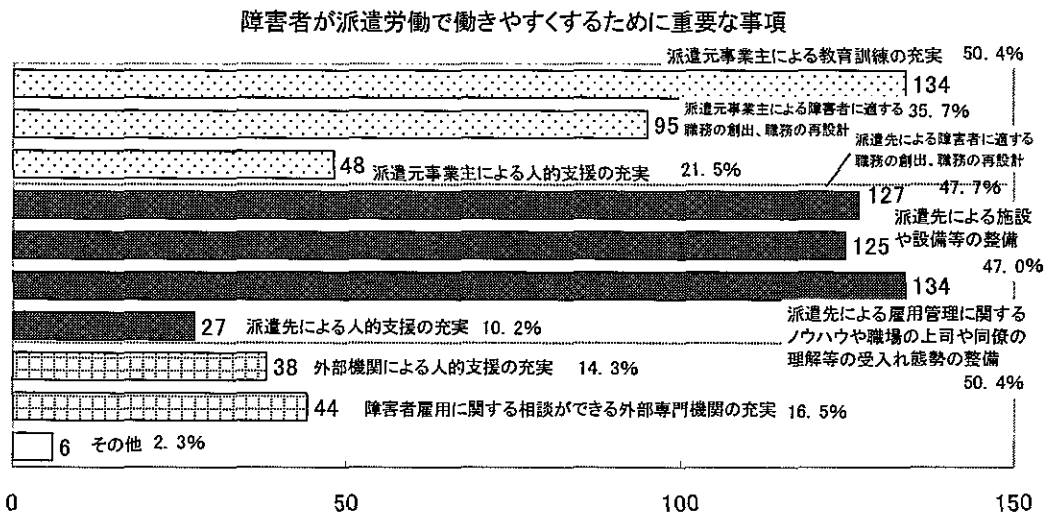
(1) 障害者である派遣労働者に対する配慮についての役割分担

障害者である派遣労働者に対する配慮について、82.3% (219) が「派遣元事業主と派遣先で分担すべき」と回答している。



(2) 障害者が派遣労働において働きやすくするための支援

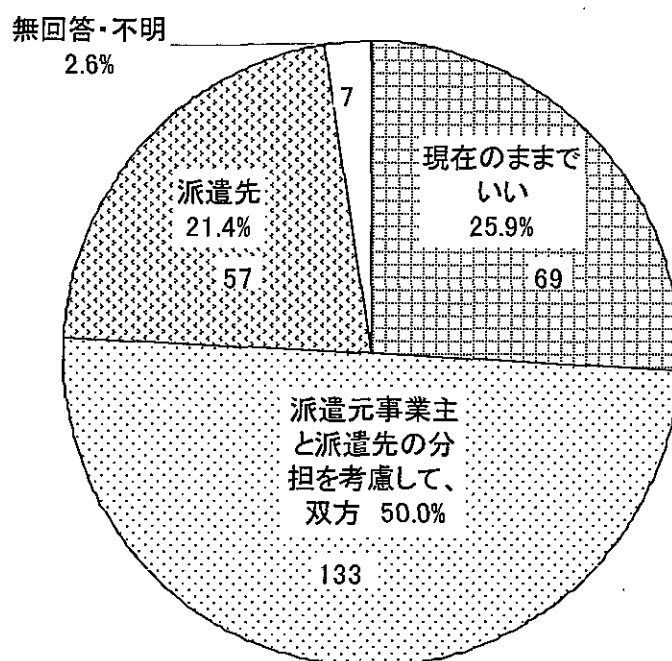
障害者が派遣労働で働きやすくするために重要と考えているもの（複数回答）については、「派遣元事業主による教育訓練の充実」と「派遣先による雇用管理に関するノウハウや職場の上司や同僚の理解等の受入れ態勢の整備」がともに 50.4% (134) と最も多く、「派遣先による障害者に適する職務の創出、職務の再設計」(47.7% (127))、「派遣先による施設や整備等の整備」(47.0% (125))が続いている。一方、「派遣先による人的支援の充実」や「外部機関による人的支援の充実」は低い水準となっている。



(3) 障害者の雇用義務及び障害者雇用率制度のカウント方法についての考え方

派遣元事業主と派遣先の障害者が働きやすくなるための配慮についての役割分担を考えたときに、派遣元事業主と派遣先のどちらに雇用義務を課し、雇用率にカウントすべきかについては、「派遣元事業主と派遣先の分担を考慮して、双方」が 50.0% (133) と最も多く、次いで「現在のままでいい」が 25.9% (69) となっている。

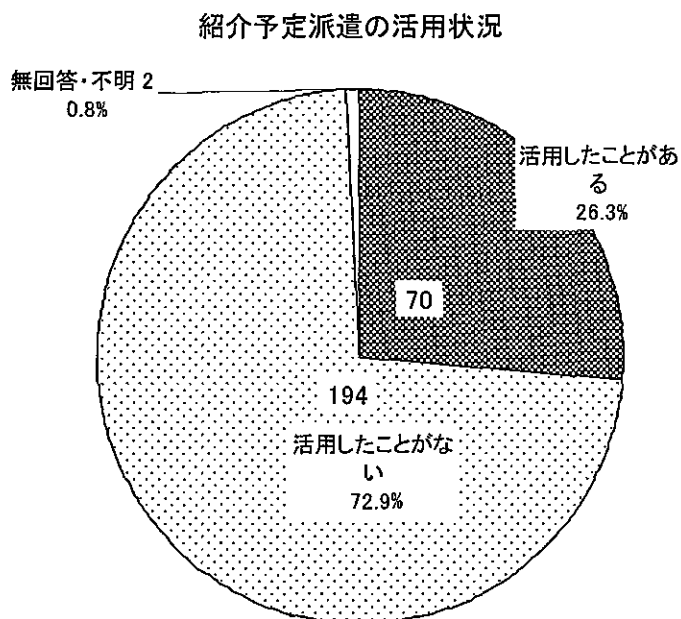
雇用義務及び雇用率カウントの対象



4 紹介予定派遣の状況

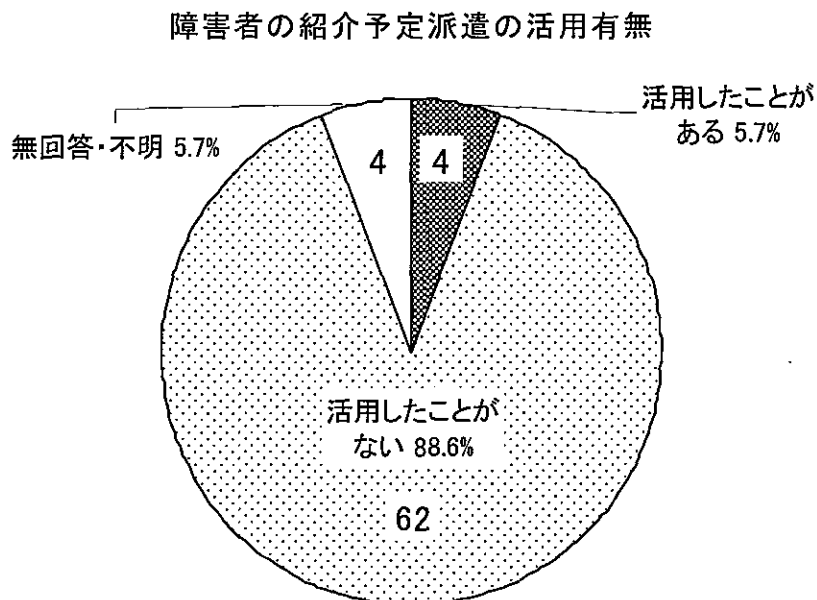
(1) 紹介予定派遣の活用状況

紹介予定派遣の活用状況については、活用したことがある事業主は26.3% (70) となっている。

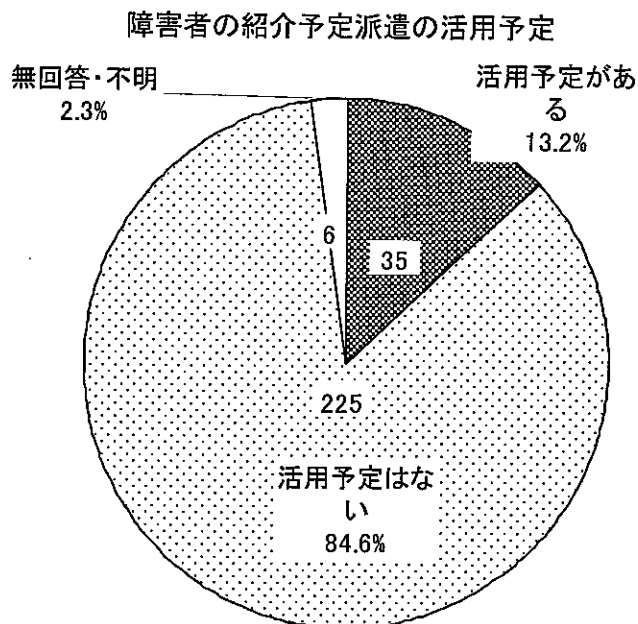


(2) 障害者である派遣労働者についての紹介予定派遣の活用状況

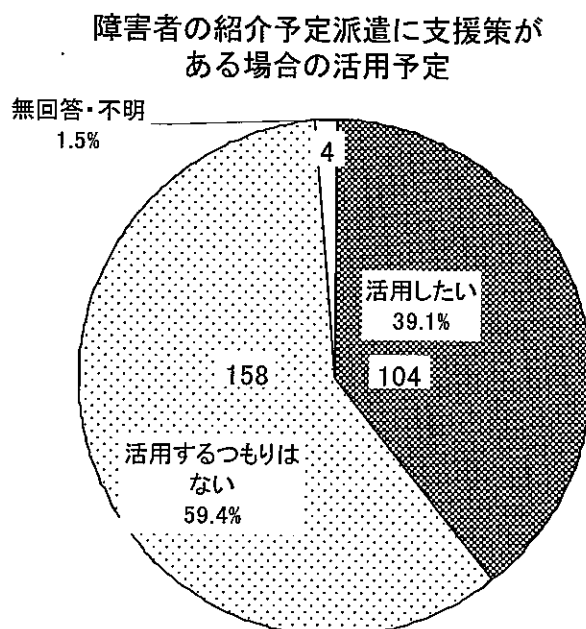
障害者である派遣労働者についての紹介予定派遣を活用したことがある事業主は5.7% (4) となっている。



- (3) 障害者である派遣労働者について紹介予定派遣の活用予定の有無
 障害者である派遣労働者について紹介予定派遣の活用予定については、「活用する予定がある」が13.2% (35) となっている。



- (4) 障害者の紹介予定派遣への支援策がある場合の活用予定の有無
 障害者である派遣労働者について、障害者の派遣先での雇用への移行を促進する施策がある場合の活用予定については、活用したいと考えている事業主が39.1% (104) となっている。

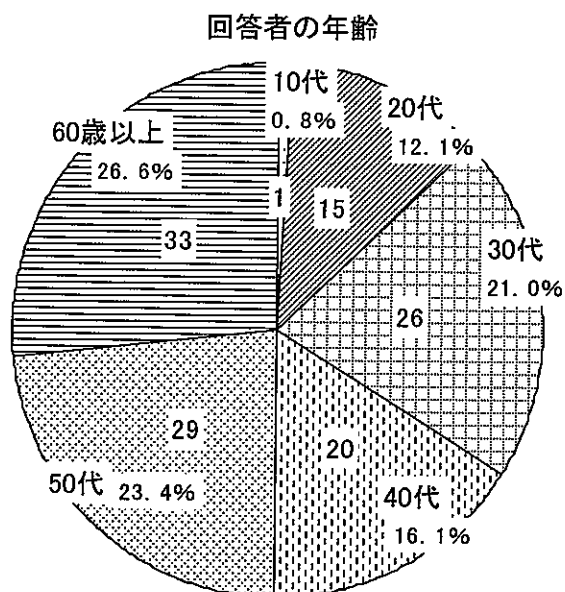


第4章 障害者である派遣労働者調査の結果について

1 回答者の属性

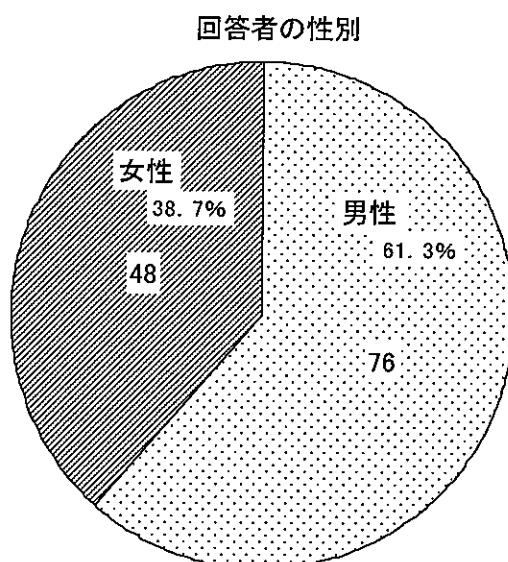
(1) 年齢

回答者の年齢については、「60歳以上」が26.6%（33人）と最も多く、「50代」（23.4%（29人））、「30代」（21.0%（26人））と続いている。



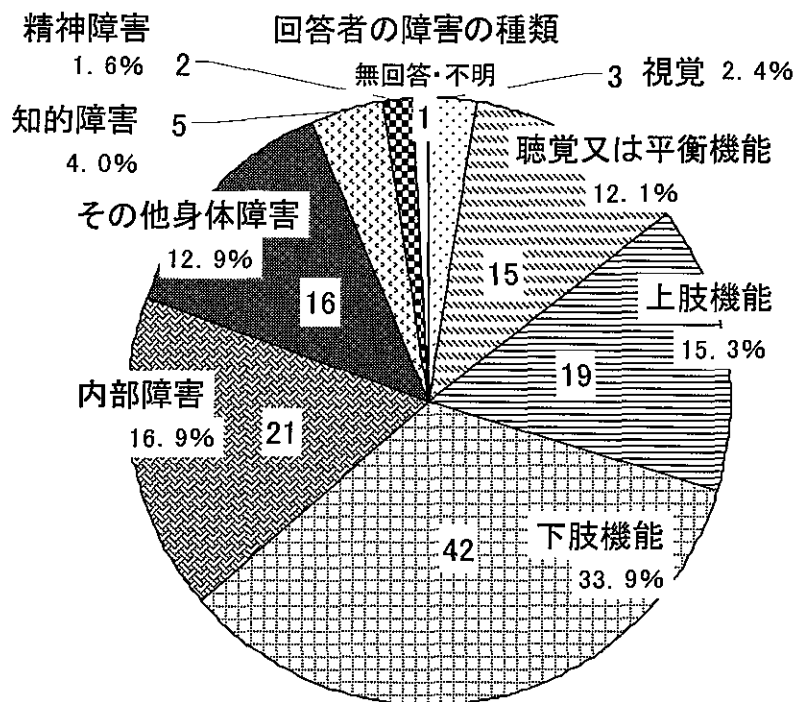
(2) 性別

回答者の性別については、「男性」が61.3%（76人）、「女性」が38.7%（48人）となっている。



(3) 障害の種類

回答者の障害の種類については、「下肢機能」が33.9%（42人）と最も多く、「内部障害」16.9%（21人）、「上肢機能」15.3%（19人）と続いている。一方、「知的障害者」及び「精神障害者」は少ない。

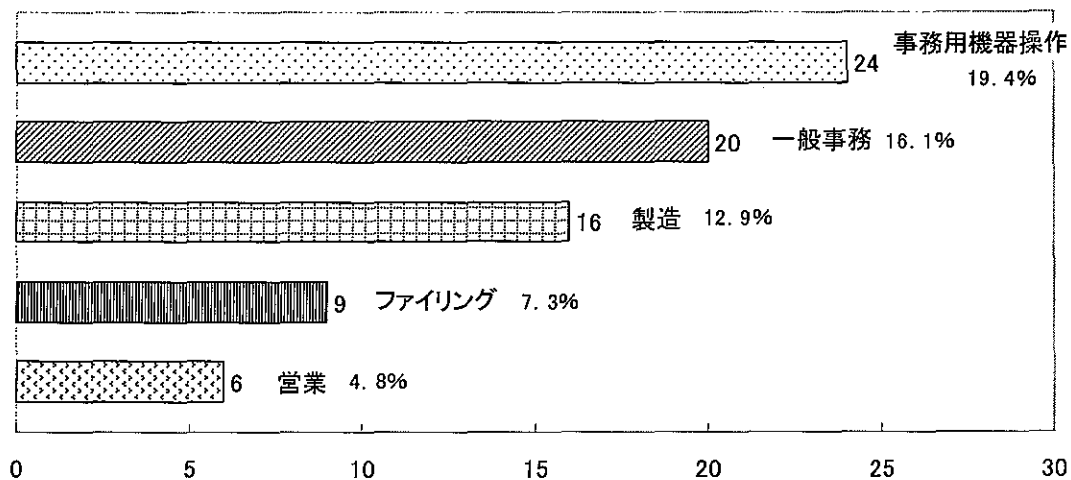


2 業務及び労働条件

(1) 業務

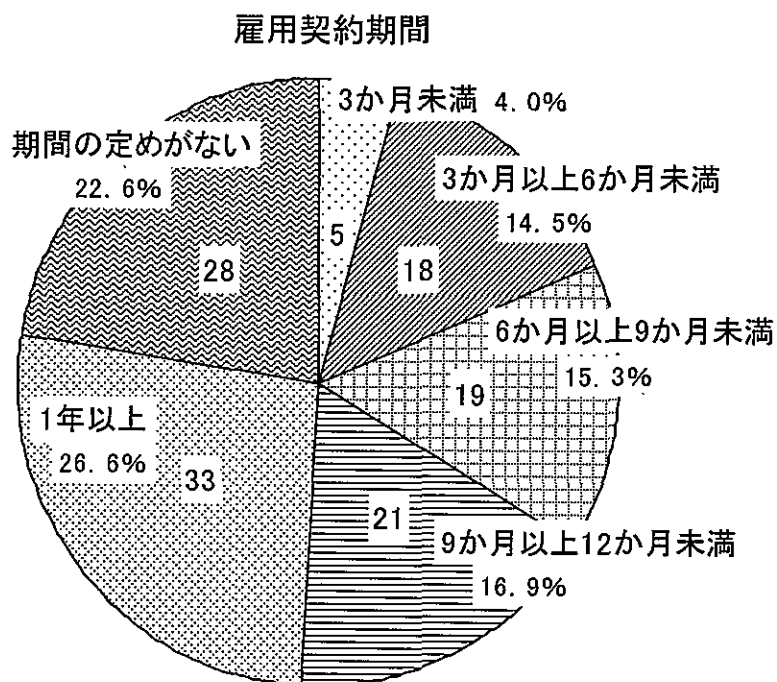
回答者の現在働いている業務については、多いものから順に上位5業務を見ると、「事務用機器操作」が19.4%（24人）と最も多く、「一般事務」16.1%（20人）、「製造」12.9%（16人）と続いている。

現在働いている業務



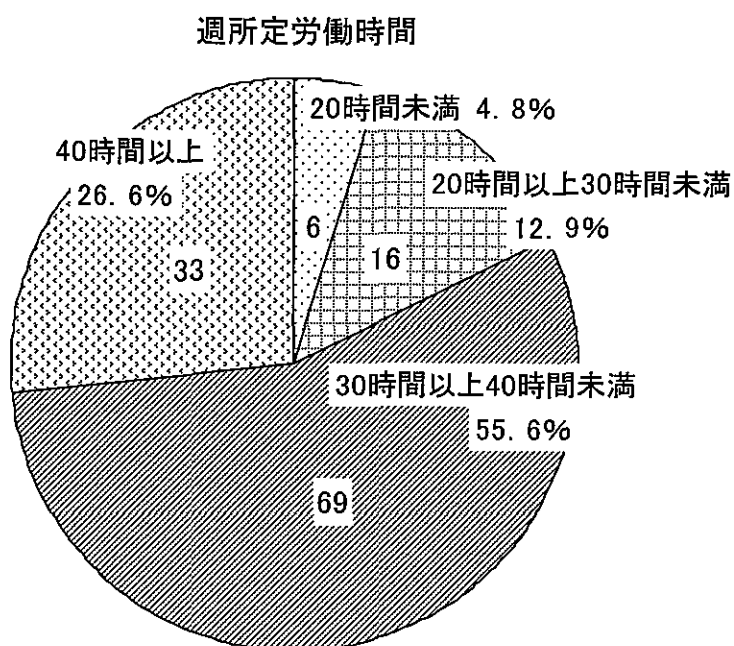
(2) 雇用契約期間

回答者の派遣元事業主との雇用契約期間については、「1年以上」が26.6%（33人）と最も多く、次いで「期間の定めがない」が22.6%（28人）となっている。



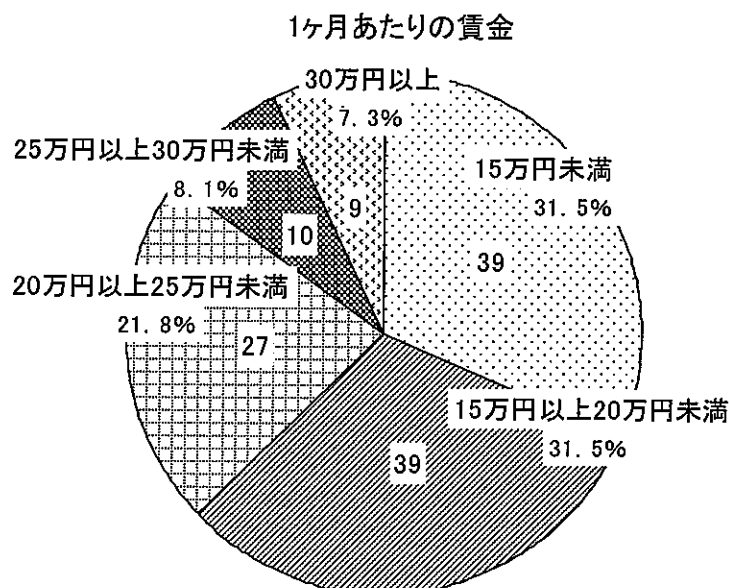
(3) 週所定労働時間

回答者の1週間の所定労働時間については、「30時間以上40時間未満」が55.6%（69人）と最も多く、次いで「40時間以上」が26.6%（33人）となっている。



(4) 賃金

回答者の1か月あたりの賃金については、「15万円未満」及び「15万円以上20万円未満」が31.5%（39人）と最も多くなっている。

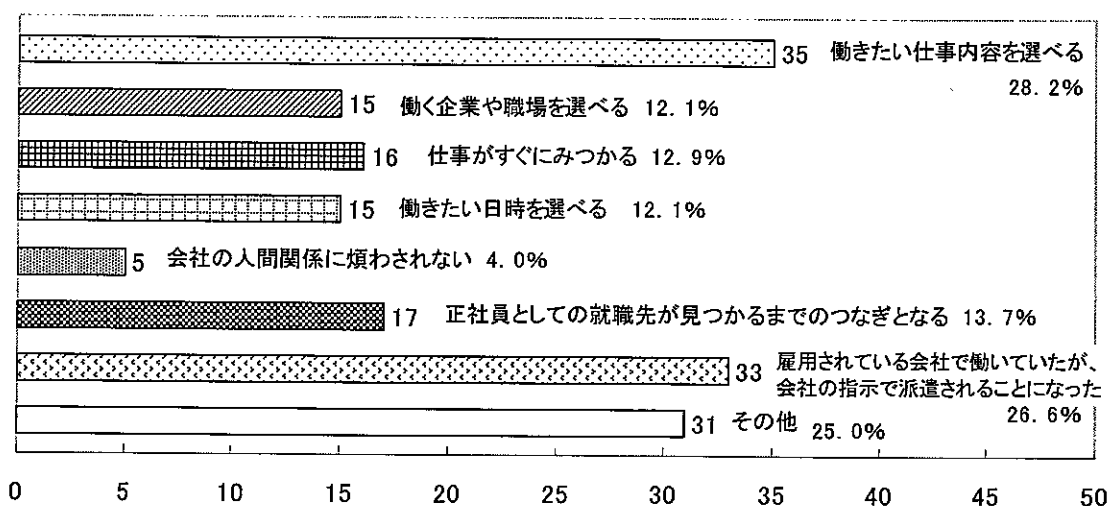


3 意向調査

(1) 派遣労働を選んだ理由

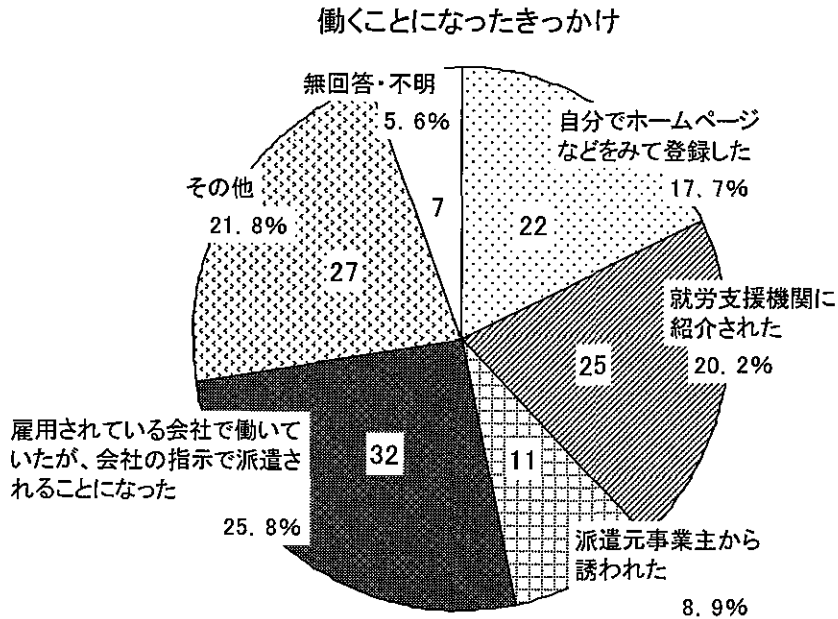
回答者が派遣労働という働き方を選んだ理由（複数回答）については、「働きたい仕事内容を選べる」が28.2%（35人）と最も多く、次いで「雇用されている会社で働いていたが、会社の指示で派遣されることになった」が26.6%（33人）となっている。

派遣労働を選んだ理由



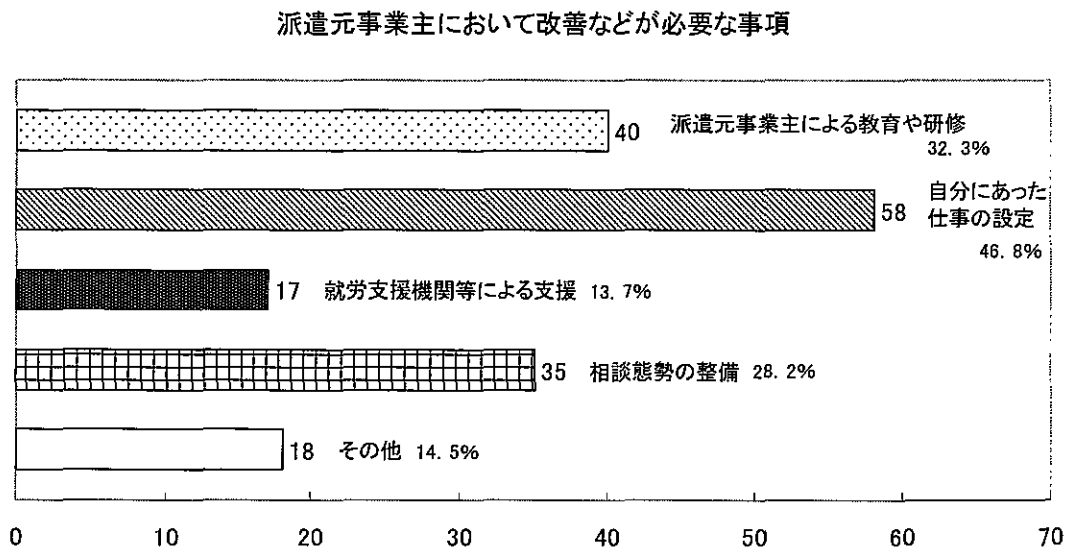
(2) 派遣労働で働くことになったきっかけ

回答者が派遣労働で働くことになったきっかけについては、「雇用されている会社で働いていたが、会社の指示で派遣されることになった」が25.8% (32人)と最も多く、次いで「就労支援機関に紹介された」が20.2% (25人)となっている。



(3) 派遣元事業主において改善が必要な事項

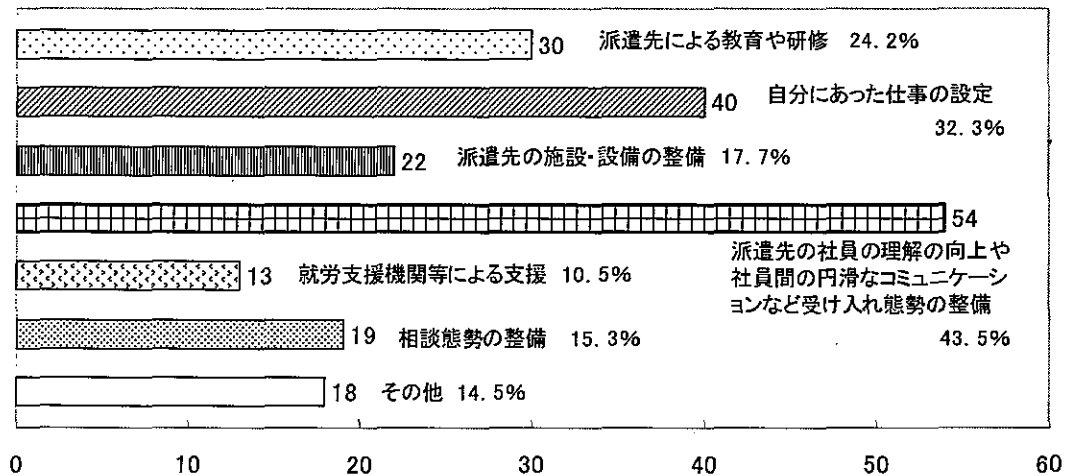
回答者が派遣労働を続けていく上で派遣元事業主において改善などが必要な事項については、「自分にあった仕事の設定」が46.8% (58人)と最も多く、次いで「派遣元事業主による教育や研修」が32.3% (40人)となっている。



(4) 派遣先において改善が必要な事項

回答者が派遣労働を続けていく上で派遣先において改善などが必要な事項については、「派遣先の社員の理解の向上や社員間の円滑なコミュニケーションなど受け入れ態勢の整備」が 43. 5% (54 人) と最も多く、次いで「自分にあつた仕事の設定」が 32. 3% (40 人) となっている。

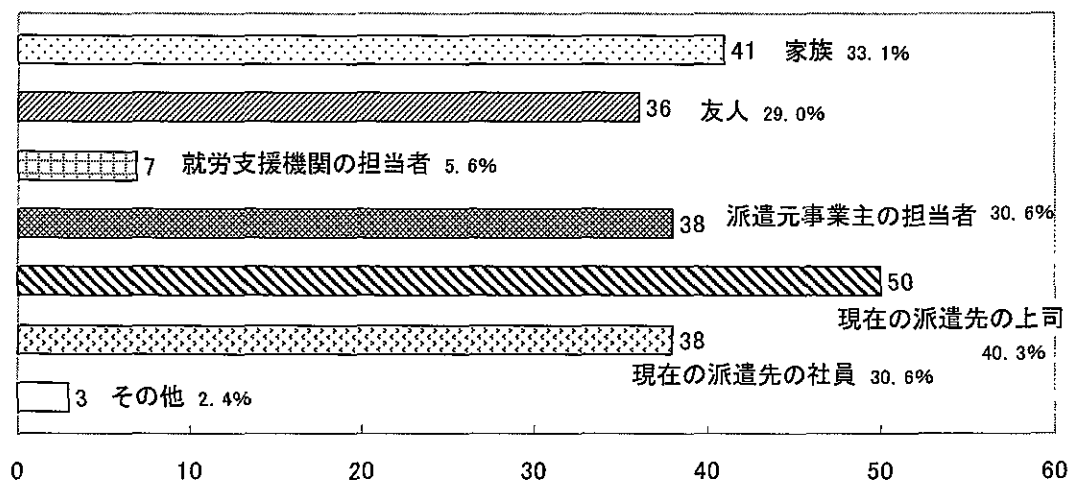
派遣先において改善などが必要な事項



(5) 相談相手

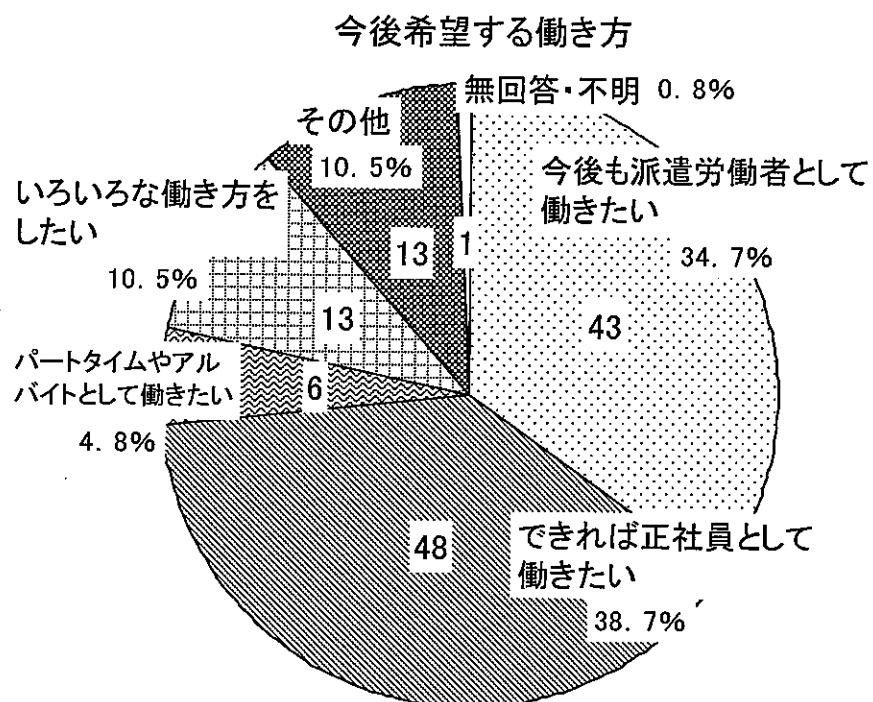
回答者の相談相手については、「現在の派遣先の上司」が 40. 3% (50 人) と最も多く、「家族」が 33. 1% (41 人)、「派遣元事業主の担当者」及び「現在の派遣先の社員」が 30. 6% (38 人) と続いている。

相談相手



(6) 希望する働き方

回答者が今後希望する働き方については、「できれば正社員として働きたい」が 38.7% (48 人) と最も多く、次いで「今後も派遣労働者として働きたい」が 34.7% (43 人) となっている。



第5章 3調査の比較

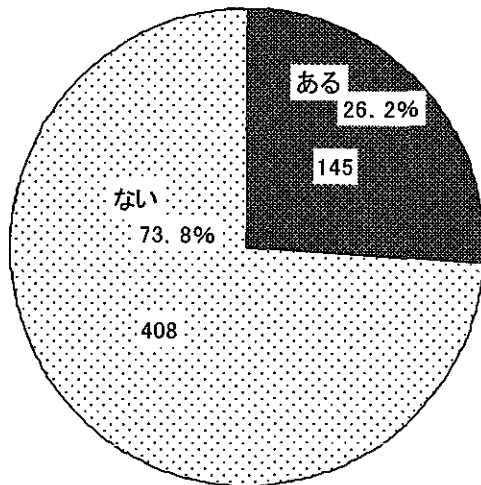
1 労働者派遣事業における障害者である派遣労働者の派遣状況

障害者である派遣労働者を派遣したことがある事業主は26.2% (145)、受け入れたことのある事業主は19.5% (52) となっており、障害者である派遣労働者の派遣及び受け入れ経験がある事業主は少なくなっている。

また、今後の活用予定の有無については、派遣先の28.9% (77) が「ある」と答えている。

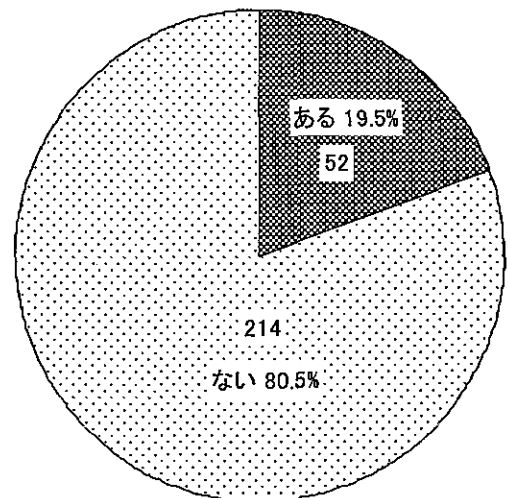
<派遣元事業主>

障害者の派遣の有無



<派遣先>

障害者である派遣労働者の受け入れの有無



<派遣先>

今後活用する考えの有無

無回答・不明 6
2.3%

